

教育課程研究指定校事業実施計画書（平成28年度）  
 — 研究課題 3（3）論理的思考 — ※27年度指定

都道府県・指定都市番号	23	都道府県・指定都市名	愛知県
-------------	----	------------	-----

## 1 研究指定校の概要

ふりがな 学校名	あいちけんりつおかざきにしこうとうがっこう 愛知県立岡崎西高等学校			ふりがな 校長氏名	うえの ひろあき 上野 裕章
所在地	〒444-0915 愛知県岡崎市日名南町7番地 電話 0564-25-0751 FAX 0564-25-9201 E-mail okazakinisi-ko@pref.aichi.lg.jp				
設置する課程 (H27.4.1 現在)	全日制課程			(H28.4.1 見込。臨時的任用の者は常勤の者のみ含む) 教員数 71 名	
生徒数 (H28.4.1 見込)					
学科名	1年	2年	3年	計	
普通科	400	395	393	1,188	
特記事項	なし				

## 2 研究主題等

研究期間	2年
学校における研究主題	論理的思考力と表現力の育成を目指した各教科における指導と評価の工夫改善 ～アクティブ・ラーニングの活用による体系的な指導～

## 3 平成27年度の成果と課題

<p>1年次は、主に国語、数学及び外国語において、アクティブ・ラーニングを活用した効果的な授業と評価の在り方を研究した。その結果、国語では、生徒が根拠と結論のつながりを考えながら文章を書くことができるようになるとともに、書いた文章を客観的に吟味し、評価していこうとする意識が高まった。数学では、理解した内容や疑問点を生徒相互で積極的に共有していく姿勢が見られるようになった。英語では、文脈を考えて100語以上のまとまりのある英文を書くことができるようになるとともに、自発的に資料を探し、より説得力や独創性のある英文を作ろうとする意欲が高まった。全体として、生徒が自分の意見を相手に伝える際に、根拠や論理性を考えて伝えようとする姿勢が見られるようになった。</p> <p>また、校内の公開授業等で他教科の授業を参観し合う機会を通して、地理歴史科や公民科、理科、保健体育科等の授業においてもアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に向けた取組が始まり、教員の意識改革や学校全体での組織的な取組が進んでいる。</p> <p>今後の課題としては、各教科の成果と課題を踏まえながら学校全体の目標を設定し、教員の共通理解を図り、各教科において学校の目標に添った具体的な指導方法を工夫する中で、さらに各教科の授業改善を進めることがあげられる。また、年間学習指導計画に教科横断的な取組を位置付けるとともに、生徒の論理的思考力の向上をより正確に測るために、各教科においてルーブリックの作成を進めるなど評価方法についての研究を進める。</p>
--

#### 4 平成28年度の研究計画

##### (1) 本年度の調査研究の重点等

主体的な学びを通して、自分の意見を持ち、他者と協働して意見を練り上げ、相手に合わせてさまざまな情報を取捨選択し整理して伝えることができる生徒の育成を目指した指導と評価方法を研究する。

主に、国語、数学及び外国語で1年次に身に付けた論理的思考力及び表現力を2年次においてさらに発展させることを目指すとともに、1年次の取組を新1年生にも取り入れ、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に取り組むことで、学校全体の授業改善を推進する。さらに、論理的思考力及び表現力の評価方法についてループリックを作成し、生徒による自己評価・相互評価を取り入れながら研究する。

- ・国語・・・「書く」活動に加えて「話す」活動を取り入れる。具体的には、課題に対するプレゼンテーションの実施をゴールとして、そこに至るまでの道筋で論理的思考力及び表現力を育成する。
- ・数学・・・与えられた原問題の条件や設定に追加・変更を加えて改題し、その問題の構造の変化を考察して解答を作成する活動を通して論理的思考力を育成する。
- ・英語・・・1年次より高度な内容に対する自分の意見を、つなぎの言葉や論の展開の仕方等に注意させ、100語程度で書かせた上で、ループリックを用いて実技テストを実施する。

また、全教科で他教科とのつながりを意識した取組を進め、年2回、論理的思考力の育成を踏まえた授業の実施を年間学習指導計画に位置付け研究する。

##### (2) 研究計画

実施時期	研究内容、研究方法、成果の公開等	期待される成果等
1 学期 2 学期	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 本年度の研究目標や本校生徒に身に付けさせたい論理的思考力について論議し、共通理解を図る。</li> <li>2 各教科において、目標の達成に向けた具体的な指導方法を工夫し、他教科とのつながりを意識した取組を年2回以上年間学習指導計画に位置付け、実施する。</li> <li>3 定期考査等において、論理的な思考力及び表現力を問う問題を出題し分析することにより、指導と評価の工夫改善に役立てる。</li> <li>4 公開授業等における外部評価と校内委員会等における内部評価を実施し、指導と評価の改善に役立てる。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科や学年の取組を学校全体の取組に高める</li> <li>・教科横断的な視点を取り入れた年間学習指導計画の作成とループリックを用いた評価の実施</li> </ul>
3 学期	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 2年間の研究成果を総括し、成果発表会を開催して関係機関や県内の中学校・高等学校に向けて研究の成果を普及・還元する。</li> <li>2 研究成果を報告書としてまとめるとともに、ホームページを活用して積極的に公開する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科における指導の改善と自分の意見を持ち、相手に合わせて情報を取捨選択し整理して伝えることができる生徒の育成</li> </ul>

#### 5 研究のまとめの見通し

研究のまとめとして、ループリックの導入による学びの変化や生徒による自己評価/相互評価を基に論理的表現力育成の成果を検証し、研究発表会を開催して関係機関や県内の高等学校に向けて授業実践や検証結果を発表し、研究成果の普及・還元を図る。

また、研究成果を報告書としてまとめ、関係諸学校に送付するとともに、ホームページを活用して積極的に公開し、他校での活用を促す。